

20150312 現代政治戦略研究会

2015年統一地方選盛り上げシリーズ！

テーマ：地方政治に普段興味のないビジネスパーソンが統一地方選でスパッと投票する方法

日時：2015年3月12日（木）19:00-21:00

場所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

発表者：新田哲史さん（企業広報アドバイザー／コラムニスト）

参加者：参加者 11人（発表者除く）

（財務コンサルタント、ビジネス研修講師、会社経営、会社員、FP、
NPO法人理事長、行政書士・司法書士など）

目次：

1. なぜ地方議会はこんなにひどいのか
2. イノベーター議員は現れるのか
3. まとめ

発表：

1. なぜ地方議会はこんなにひどいのか

・人材の質が劣化

昨年は地方議会在がひどかったです。都議会のセクハラ・ヤジから始まりました。しかし、この手のヤジは昔からよくありました。今回は議員のBLOGからネットへ拡散しました。情報が透明化してきたといえます。みんなの党はベンチャー政党で、議会内のしがらみが少ないことも情報拡散の原因の一つです。また、青森県の平川市議会では、定員20人のうち15人の議員が逮捕されました。市議会議員選挙のときにお金で票をとりまとめたからです。そして、ワーストワン、兵庫県の号泣議員です。高校生が雑談のネタにするぐらいでした。号泣議員は架空の旅行費を計上するなど政務活動費をちょろまかしました。普段注目されない地方議会が「不祥事」でこれほどニュースになったのが2014年でした。

かなり以前から市民は地方議会在を疑問視しています。日本世論調査会によると、地方議会について「あまり満足していない」、「満足していない」の合計は60%になります。理由は「議会の活動が住民に伝わらない」、「行政のチェック機能を果たしていない」などです。

地方議員の政策立案はですが、市長提出が89%になっています。そのうち99%が原案通過しています（万年野党調べ）。地方議員提出は10%です（その過半が意見書です）。政策的条例案は全体の0.1%に過ぎません。地方議会の政策立案能力は低いのです。国会は提案型にはなっていますが、地方議会在は行政チェック型のままです。

・構造的な問題

地方自治体は二元代表制です。首長と地方議員をそれぞれ選んでいます。対抗関係にあるはずですが、実際はそうなっていません。首長からの一方的な提案に対して地方議員が是非をしているだけです。つまり、地方議会在はツッコミ役だけやっていたら良かったわけです。しかも、それすらも怪しくなっています。

有権者の地方議会への関心の低さもあります。特に都市部の投票率は低いです。軒並み、35%です。投票しない理由は「知らないから」です。知らない理由にはマスコミ報道が少ないことも挙げられます。大手の新聞は特定の市町村のみを取り上げづらいです。細かく取り上げることも難しいです。取り上げるには話題性が必要になります。たとえば、全国初の条例とかです。また、記者も地方議会を傍聴していないことが少なくありません。テレビは全国級の不祥事や珍事のみ取り上げます。

市民・メディアがチェックしていません。昨年末、東洋経済オンラインに「港区議会が議員の取材対応を制限していた」を掲載しました。あるテーマにて港区議会を取材しようとしたら議長の許可が必要との返答でした。これは、お話しになりません。言論統制が都心のど真ん中で行われているということです。実は、千代田区、中央区、港区が取材のエアポケットになっています。新聞社の本社があるわけですが地方議会を取材していません。チェックが行われていないので村社会になっています。

2. イノベーター議員は現れるのか

・大阪都構想

大阪都構想など変わる兆しはあります。地方への権限移譲制度が進んできています。地方議員にも予算編成や政策提案力が求められてきています。これからはできる地方議員が必要になります。橋下大阪市長も「地方議会は議事機関にとどまらず、予算編成段階から積極的に参画していくべき」と提言しています。

・選挙権の18歳への引下げ

選挙権の18歳への引下げにより候補者多数の区市議選では個性的な当選者が増える可能性があります。18歳をターゲットにする候補者も現れるのではと推測しています。たとえば、松戸のラッパー市議です。ふり切った選挙活動する人、思い切ったことを言う人が増えてくる可能性があります。街頭活動も高校生にも伝わるものを加えていくのではないのでしょうか。

・地方議会のイノベーション・トレンド

まずは、ネットを活用した政治参画です。ブロガー議員が誕生しています。たとえば、おときた駿都議（北区）です。外資系の化粧品会社に勤めていました。若者が政治にどう関わるかをテーマにしています。政治に興味はあるがどうやって関わって良いか分からない若者層、無党派層の発掘をしています。都議会議員の報酬明細の公表など、一種のさらし芸も行っていますが、池上彰的な解析説明をしています。号泣議員を単に批判的に取り上げるのではなく、なぜこの事件が起きたのか、その背景を説明します。政治をインサイダーの立場から語っているともいえます。また、毎日、BLOGを更新しています。水野我孫子市議はツイッターで選対事務局長をスカウトしました。後援会を学校の「部活」の朝練的な雰囲気にして、これをネットで配信しています。

ついで、コミュニティの再構築（都市には地縁がない。新たに地縁を掘り出す）です。長谷部渋谷区議は若者による街のお掃除チーム「グリーンバード」の創業者です。博報堂に勤めていましたが、街のプロデューサーになるように推されたことによります。若者に街の役に立つ場を提供しています。若者は役に立ちたいがその場がないことが多いです。掃除を通じて、街を知ることできます。米国の「コミュニティ・オーガナイザー」的な要素があると考えています。

合わせて、ダイバーシティ（女性、障害者、LGBTなど）です。女性議員ゼロ議会は全1788議会のうち378議会もあります。女性議員の比率は都道府県議会25%、政令市議会16%です。女性議員を増やして、子育て、介護など生活に密着した視点を政策に反映させていくべきです。障害者の地方議員も少ないです。日本の人口の6%は障害者です。もっと障害者向けの政策を反映させるべきではないでしょうか。この政策は高齢社会に親和性があると考えます。筆談ホステスが北区議選に出馬するのではないかと注目されています。LGBTの注目度が上昇しています。石川前豊島区議はゲイであることを公表しました。LGBTでも生活しやすい社会とするための政策も必要です。

さらに、ゼロ予算（成熟社会への備え。地方議員は予算をぶんどってくるのが仕事だったが、もはや予算はない）です。人口減少が各地で始まっています。税収減・予算減を見据えた独自の取り組みが必要です。こごもりあきるの市議は民間マネーを活用してAEDを設置しました。郊外は税収減が先に来ています。過疎化が進んでいる地域では独自のアイデアが求められますし、ゼロ予算的な発想の地方議員が求められています。

3. まとめ

松野豊流山市議は「良い候補者選び 10の基準」を政治山に掲載しました。なぜ議員になりたいか、情報発信力はあるか、わかりやすく伝えているか、自分のスタイルはあるか、政策型か情実型か、自分の属性と近い候補者か、新人か現職か、無所属か政党に属しているか、スピード感と行動力はあるかなどを挙げています。ご参考になると考えます。

最後になりますが、

- ・地方議員の姿は私たちの「鏡」です。有権者のレベルを表しています。
- ・税金がどう使われるのかを決めるのは、あなたです。税金の使い道を考えれば、切実に選ぶのではないのでしょうか。
- ・ネットを使って、自分の街のことに目を向けてみてはどうでしょうか。たとえば、地方議員（候補者）のサイトに掲載されている政策とプロフィールを見たり、ザ・選挙、政治山、また、各市区町村の選挙管理委員会のサイトを見たりです。ネットは自分から探す人には使えるツールです。

以上